

献呈の辞

政経学部長 岩元 浩一

国士舘大学政経学部は、1961年に創設されて以来、2021年に学部創設60周年を迎えました。この大きな節目に当たり、まず今日に至るまで政経学部の発展にご尽力いただいた教職員の皆様方、卒業生・在学生の皆様方、さらには関係各位の皆様方に、改めまして深く感謝の意を表します。

そうした政経学部の運営や発展を支えてこられた御一人が、的射場敬一先生であります。先生は、1951年熊本県人吉市にお生まれになり、早稲田大学政治経済学部政治学科を卒業されました。国士舘大学政経学部政治学科には、1989年4月に専任講師として就任し、主として「政治思想史」、「演習」、大学院での「政治思想研究」、「文献講読」を担当されました。以来33年もの長きにわたって研究・教育および行政活動に携わるとともに、政経学部の移り変わりを肌で感じてこられたことと思います。この間先生は、就職委員、学年担任、学生主任を歴任され、2018年からは、政治学科から政治行政学科へ名称変更した際に政治・行政研究の専門機関として併設された政治研究所の所長として、研究報告、シンポジウム、紀要の刊行等を着実に実施することでその普及に腐心されました。その一方で1996年8月から1997年8月までイギリス・ケンブリッジ大学で客員研究員を務められました。

学生指導においても大変熱心で、世田谷準硬式野球部部長として、スポーツ振興に深い理解をお持ちでした。ラフな服装で授業に臨む教員が多い中、学生への敬意を怠らず、講義の際には必ずスーツと

ネクタイを着用して教壇に立つというのは有名な話でした。ゼミでは、就任以来「主体的に考えること、徹底的に考え抜くこと、他人の批判を受け入れ、自己解体と再創造を繰り返すこと、そしてそれを自分の言葉で表現すること」をモットーに、『PENSÉE』というゼミ生の論文集を毎年欠かすことなく発行してきました。学生一人一人への研究指導のみならず論文指導においても成果を求める姿勢は、ゼミ本来の姿にほかならず、敬意を表します。

先生とは、研究室が近いこともあって、度々お話をさせていただく機会がありましたが、いつも正面から本音で話して下さいました。2021年度末をもちまして先生は定年退職されますが、政経学部のあるべき姿について、今後とも大所高所からの御助言を私達後輩に賜うことができれば幸いです。

最後になりますが、先生の益々のご活躍ご健勝を願ひまして、献呈の辞とさせていただきます。